

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【日高振興局】令和5年度「花育」活動を実施

令和5年5月号

和歌山県農林水産部経営支援課  
(農業革新支援センター)

## はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. フェロモントラップによるカメムシ調査を開始	
2. 匠の技伝道師によるミニトマト栽培研修会を開催	
3. 柑橘類・柿の着花状況調査	
4. アブラナ科野菜根こぶ病検定を実施	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3</b>
1. 紀の川市4Hクラブが総会・情報交換会を開催	
2. 生分解性マルチ検証園地でたまねぎ収量調査を実施	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>4</b>
1. 採種えんどうほ場の現地状況調査	
2. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～農業技術講習会果樹コース（生理落果・品質対策）の開催～	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>5-6</b>
1. 令和5年度有田地方柑橘類の着花調査を実施	
2. 令和5年度クビアカツヤカミキリ発生実態定点調査を実施	
3. 「有田・下津地域世界農業遺産推進協議会」、「有田みかん地域農業遺産推進協議会」の総会を開催	
4. 令和5年度田んぼの学校（有田市糸我小学校）がスタート	
<b>V 日高振興局</b>	<b>7-8</b>
1. 「ゆら早生」の省力・安定生産のための現地検討会（5月）を開催	
2. 令和5年度「花育」活動を実施	
3. 日高地方農業士会女性部会が定例会を開催	
4. うめ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修～	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>9</b>
1. ほおずき実証試験ほ場の生育調査を実施	
2. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>10</b>
1. 令和5年産柑橘類の着花状況調査結果	
2. 令和5年太地町果樹研究会総会開催	

<b>Ⅷ 農林大学校</b>	<b>11-13</b>
1. スマート農業機械の演習スタート	
2. 社会人課程開講式を開催	
3. 県農林大学校ウイークエンド農業塾がスタート	
4. 赤十字救急法を受講	
5. 刈払機取扱作業安全衛生教育を実施	
<b>Ⅸ 農林大学校就農支援センター</b>	<b>14-15</b>
1. 令和5年度社会人課程開講	
2. 令和5年度技術修得研修(第1班)開講	
3. 令和5年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第1班)開講	
<b>X 経営支援課</b>	<b>16</b>
1. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が技術交換大会を開催	

# I 海草振興局

## 1. フェロモントラップによるカメムシ調査を開始

果樹に被害を与えるチャバネ、ツヤアオ、クサギなどのカメムシの発生予察を行うため、フェロモントラップを設置し、5月8日から調査を開始した。トラップは和歌山市1か所、海南市4か所、紀美野町5か所、合計10か所のスギ・ヒノキ林などに設置した。調査はJAわかやま、JAながみね、海草振興局との共同で週1回誘殺数を確認している。

今年2月の越冬量調査ではカメムシの越冬量は少なかった。トラップ調査においても5月第4週までの誘殺量は昨年度より少ない状況が続いているが、今後発生が増えることも考えられるため、調査に基づき生産者に情報提供をしていく。

調査結果は海草振興局農林水産振興部のホームページで公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/chiiki/nogyoshinko/kajyukamemushi.html>)



トラップの設置

## 2. 匠の技伝道師によるミニトマト栽培研修会を開催

5月8日、海南市高津にある匠の技伝道師の西居正憲氏のミニトマト栽培ハウスにおいて、ミニトマト栽培研修会を開催し管内外の農業者及びJAの営農指導員等17名が参加した。昨年の9月と12月に定植時から収穫期前半の栽培管理について、西居氏を講師として研修を行っている。今回は、収穫がピークとなり、食味も良い時期に開催することにした。初めに、西居氏のハウス内のミニトマトを試食させてもらった。参加者からは、「美味しい」の声が続出した。その後、西居氏から1月以降の生育状況とその栽培管理について、特に収穫がピークとなる4月に草勢を回復させるため、房を間引くなどの話があった。

また、別途用意した生産者が異なるミニトマトを試食しながらの情報交換会では、栽培方法や日頃の疑問点など、お互いに情報を共有し有意義な会となった。



栽培研修会の様子



試食をしながら情報交換会

### 3. 柑橘類・柿の着花状況調査

海草地域ではJ A、振興局が中心となり共済、市町、試験場などの関係機関の総勢27名の参集の下、令和5年産和歌地方柑橘類・柿の着花状況調査を5月9日に実施した。調査は180園地で柑橘類は温州みかんと中晩柑の2種7品目、かきは4品目について行った。

かんきつ類の着花量は、品目により園地や樹によるバラツキが見られるものの総体的に平年よりやや多い状況であった。また、新葉数、全体の着葉は中庸であり、樹勢も保たれていた。満開期は昨年より2日程度、平年より4日程度早いと思われた。柿は晩霜害に見舞われることなく生育し、満開期は昨年より7日程度、平年より5日程度早いと思われた。

参加者からは「まずは順調な滑り出し。高品質果実づくりのための栽培管理を進めることになるが、天候等によっては作況が変わることもあり得るので油断は出来ない。」との意見があった。この結果を基に生産指導を行い、さらに生産量予想のための調査を7月と9月に実施する予定で、秋の収穫に向けての熱い戦いが始まった。



目揃えの様子

### 4. アブラナ科野菜根こぶ病検定を実施

5月25日に農業試験場にて、関係機関（J Aわかやま東部営農センター、中央営農センター、海草振興局、経営支援課、農業試験場）が集まり、和歌山市内のはくさい、キャベツ栽培ほ場の土壌について、根こぶ病検定を開始した。

根こぶ病は、アブラナ科野菜に限って発病する病害で、根に大きなこぶを形成するのが特徴。幼苗期に感染すると、主根に大型のこぶが形成され、日中にしおれて生育不良となり、やがて枯死するため、産地である和歌山市で大きな問題となっている。

今回は、菌密度検定用に、事前に採取・調整した検定用土壌をセルトレイへ充填し、検定種子としてはくさい「大福」を播種した。また、病原性の検定用に5品種を各土壌に播種した。

4週間後に発芽した根部の発病程度から菌密度及び病原性を判定し、適切なほ場準備や品種決定の指標を作成していく。



検定用土壌の準備

## II 那賀振興局

### 1. 紀の川市4Hクラブが総会・情報交換会を開催

5月10日、紀の川市4Hクラブ（米田基人会長）では令和5年度総会を開催した。今年度の総会は、3名が那賀振興局に出席、5名がリモート参加のハイブリッド開催で行われた。議案は全て原案どおり可決され、米田氏が会長に再任された。

総会に引き続き行われた今年度の活動計画についての協議では、5月8日以降コロナが5類感染症に引き下げられたことから、ここ数年実施できていなかった先進地研修や、他地域4Hクラブとの交流会、また県4Hクラブ活動への参加など、今年度はより活発に会活動を展開することを確認した。

また、5月29日に行われた情報交換会では、農繁期にも関わらず会員10名が参加。

今年度の活動計画に関して、参加者から研修内容や研修候補地について多くの提案が出された。久しぶりの情報交換会の開催であり、出席者は互いの近況報告や情報共有をする良い機会となった。



ハイブリッド開催で総会を実施

### 2. 生分解性マルチ検証園地でたまねぎ収量調査を実施

那賀地方有機農業推進協議会（関弘和会長）では令和4年度～5年度、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用し、たまねぎ栽培におけるポリマルチから生分解性マルチへの転換についての検証試験を行っている。

早生・中生・晩生品種の3園地でポリマルチ区（以下、ポリ区）、生分解性マルチ区（同、生分解区）を設けて試験しており、5月に各園地で収量調査を実施した。

3園地とも栽培期間中の生分解性マルチの耐久性に問題はなく、たまねぎの生育にも大きな差は見られなかった。

生産者からは、ポリ区ではマルチ剥ぎ取り前の葉刈りとマルチ回収に掛かる労働力、及びマルチ処分費用がデメリットとして挙げられた。生分解区では、葉刈りとマルチ回収が不要で省力化を図ることができるが、導入コストが高く、広範囲での導入は難しいのではないか、といった意見が出された。

今後、協議会では調査結果をまとめ、今年度中に栽培マニュアルを作成する予定である。



試験区毎に収量を計量

### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 採種えんどうほ場の現地状況調査

5月11日、伊都地方のえんどう種子生産現場の状況確認のため、和歌山県原種育成会と農業試験場、暖地園芸センター、県果樹園芸課、農業水産振興課、JA県農、JA紀北かわかみの職員で現地状況調査を行った。

管内5か所のほ場を回り、生育状況を検討した結果、今年はこのまま順調にいけば想定以上の収穫量となる見込みとなった。一方、一部のほ場では異形株が発生していたことやハモグリバエが発生していることについて指摘があり、職員がそれぞれの状況に対応した方法を指導していた。

当課では引き続き、関係機関と連携して採種えんどうの収量安定化に向けて取り組んでいく。



ほ場調査の様子

#### 2. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】～農業技術講習会果樹コース（生理落果・品質対策）の開催～

5月18日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方への技術・経営力向上のため、かきの開花後の管理として、生理落果や品質向上の対策について講習会を開催し、17名が受講した。

はじめに、森口普及指導員から、生理落果防止の環状はく皮やジベレリン散布、果実肥大促進や着色促進の環状はく皮および新梢・樹勢管理について説明し、続いて、病虫害防除、国際水準GAP、クビアカツヤカミキリについて講義した。

その後、九度山町の園に移動し、環状はく皮を実演し受講者も体験した。はく皮程度や使用道具に関することや「はく皮する予定の枝をせん定時期に決めてよいか」などの質問があった。引き続き、かきの栽培技術を学びたい受講者に対し技術指導を行う。



座学の様子



現地研修の様子



## IV 有田振興局

### 1. 令和5年度有田地方柑橘類の着花調査を実施

5月1日に有田地方の柑橘類の着花状況調査をJAありだ、農業共済組合、JAグループ和歌山農業振興センター、近畿農政局和歌山県拠点および県関係機関の職員31名で実施した。本調査は、着花量や新梢の発生状況を達観（目視）により行うため、はじめに果樹試験場の樹を基準とし調査項目ごとに目揃えを行った。その後、地域ごとに7班に分かれ、温州みかん118園地、中晩柑類31園地の計149園地を調査した。温州みかんの着花指数は、平年を10とした場合、極早生11.4、早生9.3、普通8.2であり、総体的にやや少ない傾向で、園地や樹によるバラツキがみられた。中晩柑は「はっさく」で11.3、「清見」で7.9、「不知火」で11.0であった。また、温州みかんの満開期は、3月～4月にかけて気温が高く推移したため平年より早く、極早生で5月3日（平年より5日早い）、早生で5月5日（平年より4日早い）、普通で5月6日（平年より4日早い）となった。これらの調査結果を関係機関で共有し、今後の栽培管理の指導に役立てていく。



目揃えの様子

### 2. 令和5年度クビアカツヤカミキリ発生実態定点調査を実施

有田地域では、クビアカツヤカミキリの発生を早期に把握して効果的な防除対策に役立てるため、令和3年にJAありだの協力の下、管内の生産園地の分布等の実態を考慮した上で調査10園を決め、毎年5～6月と10～11月の年2回調査を行っている。今年は、5月16～18日にすもも5園、うめ3園及びびもも2園で実施した。今回の調査では被害は確認されなかった。調査の際は、園主にクビアカツヤカミキリのフラスの特徴やフラスを発見した際の初期対応等について説明した。

今後は、5月10日に隣接の日高地域でクビアカツヤカミキリの被害が確認されたのを受け定点数を約30園増やし、6月にも同様の調査を行う予定である。



園主にクビアカツヤカミキリについて説明する普及指導員

### 3. 「有田・下津地域世界農業遺産推進協議会」、「有田みかん地域農業遺産推進協議会」の総会を開催

5月26日、「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」として世界農業遺産の認定を目指す「有田・下津地域世界農業遺産推進協議会」（会長：JAありだ森田耕司代表理事組合長）の総会がJAながみねしもつ営農生活センターで開催された。令和5年1月に農林水産大臣から世界農業遺産への認定申請の承認を受けており、令和5年度事業として英訳申請書の作成や国際連合食糧農業機関（FAO）への申請が承認された。

引き続き、令和3年2月に日本農業遺産に認定された「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」の保全活動等を担う「有田みかん地域農業遺産推進協議会」

（会長：同 森田耕司氏）の総会が開催された。令和4年度の事業経過報告及び収支決算が承認された後、令和5年度の事業計画として研修会の開催やPR活動などが承認された。農業水産振興課では、両協議会の活動を支援するとともに、協議会と連携し地域内外への農業遺産のPRを実施していく。



森田会長のあいさつ



総会の様子

### 4. 令和5年度田んぼの学校（有田市糸我小学校）がスタート

有田市糸我小学校では糸我地区青少年育成会主催による「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦氏）がスタートした。「田んぼの学校」は5年生児童21名が「総合的な学習の時間」の授業の中で田植え、稲刈りなど年間を通じてコメ作り・アイガモ農法の体験・実践を行う予定になっており、収穫されたお米は「鴨・米・美」（カモンベイビー）として一般の方にも販売されており、今年度で23回目の開催となる。

5月9日に種まき、アイガモ卵のふ卵器への入卵、5月18日に卵の生育状況を確認する検卵が実施され、山崎氏と農業水産振興課職員から、孵化に必要な条件や、受精卵の成長の様子について、説明を行った。児童らは初めて見る卵の内部の様子に興味深く観察し、有精卵が無事成長していると喜び、成長を見守っていた。6月には田植え・アイガモ放鳥を実施予定で、収穫・販売まで年間を通じて当課が学習支援を行っていく。



キヌヒカリと黒米の種まき

## V 日高振興局

### 1. 「ゆら早生」の省力・安定生産のための現地検討会（5月）を開催

5月15日、農業水産振興課では、「ゆら早生」の省力・安定生産のための現地検討会を開催し、生産者や関係者12名が出席した。

この検討会は、由良町において、冬季のジベレリン散布による花芽着生量の調整技術を普及させることを目的に開催している。昨年12月21日に現地展示ほ場において、同町かんきつ栽培農家を対象にジベレリン散布の実演会を行っており、今回は、その結果として花芽着生量を実際に確認し、効果を実感してもらえるように実施した。

樹ごとに効果の違いを確認した参加者からは、「ジベレリン処理したものと、そうでないものとは、明らかに花芽数や新梢の成長に差が見られることが分かった」、「摘果作業の軽減だけでなく樹勢回復にもつながるのではないか」等の声が聞かれた。

なお、7月には、摘果作業の軽減化における効果について検討会を行う予定である。



ジベレリン処理について説明



散布の効果を参加者が確認

### 2. 令和5年度「花育」活動を実施

5月19日、日高地方農業士会（会長：清水俊夫氏）と日高地方花き連合会（会長：假家 誠氏）は、令和5年度の「花育」活動を実施した。この活動は、子ども達に全国有数の花き産地である当地方の花の魅力や生産を知ってもらうことを目的に実施されており、今年で15回目となる。

管内の生産者から提供された花で作成した花束と、日高地方の花を紹介したパンフレットを管内の小学校30校の5・6年生（83クラス、1,153名）に届けた。

また、希望のあった8校では贈呈式を行い、うち5校では農業士会員や花き連合会会員指導のもと、ミニ花束づくり体験を実施した。

ミニ花束づくりの体験をした児童らは「可愛い花束ができました」などと笑顔で話していた。



ミニ花束作り体験（日高川町立 和佐小学校）



作った花束を持って記念撮影  
（日高川町立 和佐小学校）

### 3. 日高地方農業士会女性部会が定例会を開催

5月26日、日高地方農業士会女性部会（部会長：片山綾子氏）は、定例会を開催し部会員14名の出席があった。

議事に入る前に、部会員の近況報告が行われ、現在の活動状況や農作業の苦労話などが報告された。

議事では、令和4年度活動経過報告が行われた後、令和5年度活動計画が検討され、先進地研修と現地研修会を開催することとなった。先進地研修として、昨年コロナ禍で中止になった京都市中央市場内にある「京の食文化ミュージアムあじわい館」と農産物直売所「旬の駅」京都店への視察研修、現地研修会は印南町で行うことが決定した。

会終了後、会員が持参した農産物の交換が行われ、参加者からは歓声が上がっていた。



近況報告



農産物交換

### 4. うめ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修～

農業水産振興課では、うめ研究所、JA紀州等と連携し、うめ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）による青梅生産性の向上に取り組んでいる。

5月29日及び30日に梅生産者を対象とした摘心処理（2次処理）の現地研修会をみなべ町と日高川町の2地区で開催した（29日：参加者2名、30日：参加者8名）。

行森普及指導員から、参加した梅生産者に対して充電式電動バリカンによる摘心処理の方法を実演指導した。参加者からは「4月の一次処理だけでは効果は無いのか」「2次処理が6月以降となった場合でも処理枝の伸張は停止するか」等の質問があった。

今後は、カットバック処理及びせん定講習会を11月下旬頃に開催する予定である。



摘心処理講習会（日高川町）

## VI 西牟婁振興局

### 1. ほおずき実証試験ほ場の生育調査を実施

西牟婁管内では8月盆にあわせて、直売所出荷向けにほおずきが栽培されているが、前作の地下茎を植えつけるため、白絹病などの病害の発生が問題となっている。このため、農業水産振興課では昨年度から、生産者や関係機関とともに他産地で実施されている実生苗から地下茎を養成する栽培方法を検討し、生産者5名のほ場で実証試験を行っている。

5月8日、JA営農指導員3名、当課の谷普及指導員で各実証試験ほ場の草丈や茎径、節数、花数、病害の有無等を調査した。今のところ大きな生育差はみられなかった。

7月に第2回目の調査を行い、結果をとりまとめ、生産者やJAを対象に栽培研修会を開催し、意見交換を行う予定である。

当課では、需要のあるほおずきの安定生産技術の確立に向け、栽培方法の現地検討を継続していく。



生育調査の様子

### 2. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施

もも・うめ・すもも・さくらなどバラ科の植物を加害する特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が県北部で広がっており、今年5月には御坊市で被害が確認されたことからより一層警戒を強めている。

西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）において、5月16～23日にかけてのべ50名の参加の下、うめ76園地（760本）、すもも20園地（200本）、さくら20地点（706本）の発生状況調査を行った（うめは西牟婁果樹技術者協議会と連携）。調査の結果、アリやコスカシバのフラスがあったもののクビアカツヤカミキリの被害は確認されなかった。今後、広報誌等への掲載やチラシの配布による地域住民への啓発を継続する。



基部の確認（さくら）

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 令和5年産柑橘類の着花状況調査結果

5月2日、16日、18日に東牟婁地域の柑橘類着花状況調査を実施した。JA、太地町役場、各生産団体、県関係機関が協力し、ポンカン12園地、ゆず30園地、じゃばら8園地の計50園地の着果数や新枝の発生程度を調査した。

調査の結果、ポンカンの着花数は平年並で、昨年よりやや多く、ゆずの着花数は平年・昨年より多く、じゃばらは平年及び昨年並であった。

また、全園地とも、満開期は平年より6日程度早く、昨年並から3日程度早かった。一部、着花数のやや少ない園地を確認したことから、収量を確保するよう、今後の管理作業の指導に調査結果を役立てる。



調査状況

### 2. 令和5年太地町果樹研究会総会開催

太地町果樹研究会（会長：東 勝人氏）は、5月15日に太地町公民館で令和5年度総会を開催し、関係者含めて9人の出席があった。東会長の挨拶の後、令和4年度の活動報告、会計報告、新年度の活動計画などの議案は全て可決された。

近年は、新型コロナウイルス感染予防のため、着花状況調査と総会程度の活動となっていたが、今年度は、視察研修会等実施等の前向きな意見があった。一方、鳥獣による農作物被害や高齢化に伴う管理不足による品質低下への対策について、活発な意見交換が行われた。



開催時の様子

## Ⅷ 農林大学校

### 1. スマート農業機械の演習スタート

農林大学校では、学生にスマート農業機械や省力化機械の構造や操作方法を習得させるため、年間5回の演習をスタートした。

1年生11名を3班に分けて、4月18日、5月9日、5月16日にスピードスプレヤー、ラジコン草刈り機、畝たて成型機の演習を行った。

職員からの機械の構造や安全に操作するための注意点の説明とデモンストレーションの後、実際に学生が操作の実習を行った。学生らは「慣れれば防除や草刈りが楽になる」「畝たて成型機はまっすぐ運転するのが難しい」など積極的に操作を行った。12月には、無人航空機（ドローン）や自動運転トラクターの演習が外部講師により行われる予定である。



リモコン草刈り機とSSの操作



畝立て成型機の操作

### 2. 社会人課程開講式を開催

5月10日、社会人課程の開講式が開催された。今年度は果樹コース3名、野菜コース5名でのスタートとなった。式辞では、野見和歌山産業技術専門学院長、小畑農林大学校長それぞれから「農業の楽しさ、厳しさを充分学んでほしい」「長丁場の研修で体調管理には充分気をつけてほしい」と挨拶があった。受講生は初日という事もあり、緊張した面持ちで式に臨んでいた。これからの9カ月間、受講生はそれぞれの目標に向かって果樹や野菜の実習に取り組んで行くこととなる。



社会人課程受講生



野見和歌山産業技術専門学院長の挨拶

### 3. 県農林大学校ウイークエンド農業塾がスタート

5月13日、農林大学校においてウイークエンド農業塾の開講式を行った。

今年度、ウイークエンド農業塾（8回／年）の申し込みは88名あり抽選の結果、果樹コースと野菜コース、それぞれ15名が農業の知識や技術を学ぶこととしている。

開講式初日、果樹コースは、かきの摘蕾についての講義とかきほ場での実習、野菜コースは、野菜の育苗についての講義と育苗ハウスでスイートコーンのは種を行った。

受講生からは「種まき後の覆土やかん水方法がわかった」、「かきの残す蕾がわかった」などの声があった。

今後は、野菜コースは11月まで、果樹コースは来年1月まで、講義とともに栽培管理や収穫等の実習を行う予定である。



開講式



かきの摘蕾実習

### 4. 赤十字救急法を受講

5月16日、農学部園芸学科1年生11名が、赤十字救急法の講義を受講した。講師は日本赤十字社和歌山県支部の大林指導員で、一次救命処置（心肺蘇生、AEDを使用した除細動）及び止血法を学んだ。

本講義は、農林大学校での学生生活が始まったばかりの1年生が農作業事故から身を守る知識やいざという時の手当の行い方を学ぶために前期の早い時期に実施している。

学生は一次救命処置の説明を受け、グループを組み人形を使って実際に心肺蘇生を行い、胸骨圧迫を正しく出来ているかを互いに確認しながら取り組んだ。



救命の説明を聞き入る学生



胸骨圧迫



## 5. 刈払機取扱作業者安全衛生教育を実施

農作業において雑草対策は重要な作業の一つであり、しかも農業者への負担も大きい。刈払機は草刈作業に多く使用されているが、転倒、刈刃の跳ね返り、刃に飛ばされた物により、作業者本人や周囲の人の負傷など非常に危険な作業となる。また、労働環境により熱中症や振動障害等の危険性も考えられる。このような危険を回避するため、5月19日に農林大学校1年生10名と社会人課程受講生8名を対象に安全衛生教育を実施した。

受講者は、安全教育の目的である作業中の事故防止・刈払機の正しい使用法・適切な整備点検等について熱心に受講していた。特に、刈刃による事故が発生した場合、重篤なケガにつながるということを改めて確認できた。刈払機を初めてみる受講者もあり、安全衛生教育の目的を十分に達成することができた。



講義開始



保護具の説明

## IX 農林大学校就農支援センター

### 1. 令和5年度社会人課程開講

5月10日、就農支援センターにおいて社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）がスタートし、県内外から10名が受講することになった。開講式では、竹中所長から「農業の現状と課題にしっかりと向き合い、農業人としての幅広い知識と技術を身につけ、農業の魅力をビジネスとして切り開いていって欲しい」との挨拶があり、その後受講生一人ひとりが研修にかかる思いや将来の展望などを語った。

研修生たちは、来年2月9日まで約9ヶ月間、講義と実習、農家研修など実践的な技術を幅広く学ぶ。



社会人課程の開講式



野菜の実習

### 2. 令和5年度技術修得研修（第1班）開講

5月15日、技術修得研修（第1班）の開講式を開催した。今年度は、県内外から4名の研修生が参加し5月～9月の5か月間（全25日間）、講義と実習を通じて農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。

初日は開講式に続き、竹中所長から県内の果樹・野菜・花き産地の概況等について講義を行った。午後からは、ぶどうの花穂切り込み（整房）及び、新梢誘引について実習を行った。研修生からは「作業の必要性が理解できて良かった」などの感想があった。



技術修得研修の開講式



ぶどうに関する実習

### 3. 令和5年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第1班)開講

5月20日、週末を利用して農業の初歩的な知識や技術を学ぶウイークエンド農業塾農業入門コース(第1班)が開講し県内外から14名が参加した。開講式では、竹中所長から「充実した研修にしてほしい」と挨拶し、その後研修生が自己紹介を行い「退職を機に自家の農地を耕作して果樹や野菜を作りたい」、「将来の就農に向けて農業の基礎を学びたい」など抱負を語った。

その後、午前中は「和歌山県農業の概要」、「農薬の安全使用」の講義、午後は動力噴霧器等農業機械の取り扱いを実習した。

翌5月21日は、午前中「土壌と肥料」、「スイートコーン・しょうがの栽培」の講義、午後はスイートコーンの定植準備を実習した。

今後、8月6日まで計10日間の日程で果樹、野菜、花きの栽培方法など基礎知識を学ぶ。



開講式



【実習】 動力噴霧器の取り扱い

## X 経営支援課

### 1. 和歌山県4Hクラブ連絡協議会が技術交換大会を開催

5月12日、和歌山県4Hクラブ連絡協議会（会長：小澤光範氏）は公益財団法人和歌山県農業公社（和歌山県青年農業者等育成センター）と共催で、令和5年度和歌山県農村青少年技術交換大会を開催した。コロナ情勢により開催は4年ぶりで、クラブ員15名が参加した。

大会では、まずペーパーテスト35問と写真による鑑定8問に取り組み、その後実物を見ながらの鑑定7問に回答した。専門外の問題に悪戦苦闘しながらも、クラブ員はそれぞれ日頃の研鑽の成果を発揮するべく問題に取り組んでいた。

採点の結果、和海地方4Hクラブ連絡協議会の志賀友哉氏が最高点となり、次点には3名が同点で続いた。志賀氏と次点のうち西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会の北川翔大氏の2名は、来年1月に愛知県で開催される全国農業青年交換大会に参加する予定である。



ペーパーテストに取り組むクラブ員



成績優秀者の紹介

### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489